

郷土摂津

第75号

平成16年7月1日

いにしえ通信

発行 摂津市教育委員会 生涯学習部 生涯学習課

〒566-8555 摂津市三島一丁目1-1

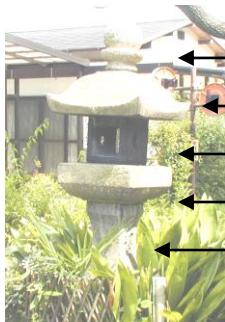
Tel(06)6383-1111 (072)638-0007

ホームページアドレス <http://www.city.settsu.osaka.jp/>摂津市の
石造文化財神前型灯籠
春日灯籠
(千里丘3丁目)

第4回

室町時代後期から神前型灯籠を、有力者や信者が競って寄進し、数多く献納されました。金剛院本堂前にこの神前型灯籠があります。

宝珠と請花をシンプルにつくり、笠部の頂部にのせています。笠も江戸時代の新しい形式で反が強くはねあがっています。火袋には左右に日月を配して、それを受ける中台も単純です。竿部にはめずらしく梵字を配しています。竿部全体に銘文を記しているので紹介します。



宝珠・請花 (ほうじゅ・うけばな)

笠部 (かさぶ)

火袋 (ひぶくろ)

中台 (ちゅうだい)

竿部 (さおぶ)

※□の部分
は摩滅が激しく不明

(裏)	(左)	(正)	(右)	銘文
延亨四卯年 仲久吉	□ 行者 □ 寂道	於 □ 前告 □ 摩一萬座悉地 □	叱是光耀永傳萬年	照燈石塔阿遮尊前

金剛院内に一般的な春日灯籠があります。宝珠の部分がシンプルなのに比べて請花の花弁は一枚ずついねいにつくられています。笠部の蕨手(わらびて)が出現するのは、鎌倉時代以後であり、古いものでは巻き込みの立ちあがりが高くしっかりしていますが、新しいものになると丸みに加えて単なる渦巻きとなるのが特色です。この蕨手も単純な渦巻文となっています。火袋にも連子や格狭間を設けていません。中台は、四辺に切り、請花で受けさせ、竿部を極端にすぼめてこの部分に銘文をいれているのが見られます。



春日灯籠

ふるさと
摂津講座

日 時 平成16年7月21日(水)
午後2時～4時
会場 総合福祉会館第1会議室
講師 ふるさと摂津案内人 早川博氏
生涯学習課職員

①金剛院
②淀川から
土器が出土

参加費 無料
定員 60名

※受講に際しては、申し込みは必要ありません。講座当日に直接会場へご来場ください。

石碑・顕彰札の紹介

摂津市域の歴史をたずねて

【所在地】摂津市千里丘東4丁目1

【設置年度】平成4年度改修

条里制 条里制とは農地開拓のために行われた耕地の地割制度のことです。東西南北に六町(一町は約109m)幅に区画されていました。一町方格はさらに36に分けられ、坪と呼ばれました。摂津市域の北部には、条里制を踏襲したまちなみが残っています。また千里丘東四丁目辺りは以前「坪井村」と呼ばれており、条里制の名残だろうと考えられています。

現在、条里制の起源については、大化の改新がはじまり大宝律令・養老律令の施行の時期、すなわち中央集権的な大和朝廷が確立した時期が有力な説となっています。

摂津市を含む三嶋地方の条里は、正東西・南北に展開する嶋上郡・嶋下郡の条里を主体としながら、摂津市域・吹田市域においては約33度北西へ方位が転換する地域として知られています。またちょうどこの方位が転換しているところに条里制の顕彰札があり近くに境川が流れています。

この境川に沿って「坪境石」とか「けんか石」と呼ばれる6個の石が並んで発見されています。昭和58年に大阪府教育委員会によりこれらの石の発掘調査が実施されました。調査の結果、坪境石が現在の状態に置かれたのは近世から近代のころと判明しました。しかし、地上げや土地改良の度に設置しなおされた可能性があり、石自体は古いものである可能性を残すと報告されています。この坪境石のうち3つが顕彰札の下に置かれています。



第38回 埋もれた摂津市の歴史

淀川から土器が出土

この淀川が流れる市域の南に鳥飼大橋が架橋されています。そして、鳥飼大橋の右岸上流側に和道遺跡が位置します。和道遺跡は現況は河川敷ですが、土器の散布地として周知されていました。この和道遺跡の地に大阪モノレールの建設がはじまりました。その折、平成4年に橋脚部分につきまして、発掘調査が実施されました。(つづく)

淀川は瀬戸内海と琵琶湖を結ぶ日本を代表する大河です。人々は昔から農業用水や生活用水として利用するだけでなく、舟運によって貨客を運び、生活や文化を豊かにしてきました。まさに生活や文化を育む母なる大河といえるでしょう。

